

蓬萊竜太が2018年に新国立劇場に書き下ろし、  
 第6回ハヤカワ「悲劇喜劇」賞を受賞した『消えていくなら朝』を蓬萊が自ら演出！！

**フルオーディション企画・第7弾**  
**2024/2025 シーズン 消えていくなら朝**  
**全キャスト決定！（全2枚）**

小川絵梨子芸術監督が、その就任とともに打ち出した支柱の一つ、すべての出演者をオーディションで決定するフルオーディション企画・その第7弾となる、2025年7月公演『消えていくなら朝』。その全キャストが決定いたしました！

2018年7月に蓬萊竜太が新国立劇場のために書き下ろし、宮田慶子が演出、第6回ハヤカワ「悲劇喜劇」賞を受賞した本作。今回は演出に、その作家でもある蓬萊竜太を迎え、2024年1月12日より公募を開始、2090通のご応募をいただきました。2月初旬の書類選考を経て、3月中旬まで一次選考、二次選考を行い、すべての出演者が下記の通り決定いたしました。

社会での最小単位である家族が織りなす様々な風景から、今日の社会の姿を照らし出す作品を集めた、シリーズ「光景—ここから先へと—」。本作は、2025年に上演する海外招聘公演『母』、6月に上演する『ザ・ヒューマンズ—人間たち』に続く、シリーズ企画の3作品目となります。最も身近で、最も厄介な存在である「家族」を、蓬萊独自の視点で切り取った本作が、オーディションを経て選ばれた6名のキャストと共にどんな新たな“光景”を生み出すのか、どうぞご期待下さい。

**決定キャスト（台本順）**

羽田定男（僕）	関口アナン
羽田庄吾（兄）	松本哲也
羽田可奈（妹）	田実陽子
羽田君江（母）	大沼百合子
羽田庄次郎（父）	大谷亮介
才谷レイ（彼女）	坂東 希



（上段 左から）大谷亮介、大沼百合子、関口アナン  
 （下段 左から）田実陽子、坂東 希、松本哲也

## <作・演出 蓬萊竜太 コメント>

たくさんの役者さんに出会えたオーディションでした。オーディションとは残念ながらほとんどの役者とご一緒できないのだと、改めて痛感しました。色々な迷いと思いの中、6人を選出させていただきました。その選択が既に作品の世界と核を作るような作業だと感じていました。公演は来年ではありますが、長い期間をかけながら作り上げていきたいと思います。是非ともその世界を味わいに劇場に足を運んでください。

## <演劇芸術監督 小川絵梨子 コメント>

『消えていくなら朝』のオーディションにご応募くださった方々、そして長期にわたるオーディションにご参加くださった方々に厚く御礼申し上げます。

オーディションを通して皆様と出会う機会をいただけることは、我々劇場にとりましても、また演出家の方々にとりましても大切な財産です。

本企画はこの度で7回目を迎えましたが、これまで続けてこられたのは、ご応募くださったお一人お一人のおかげです。オーディションですべてのキャスティングを、との思いを掲げても、参加してくださる方々がいてくださらなければ、この企画自体を続けることが難しかったと思います。

過去には本企画でのオーディションでの出会いから、当劇場の作品や、またご担当くださった演出家の方の別の作品で一緒させていただく、といった機会も少なからず生まれており、本企画を続けていく上で一つの励みともなっております。

新国立劇場演劇では、引き続きオーディションにて作品を作ることの豊かさとその意義を探究しつづけて参りたいと思います。皆様にまたご興味を持っていただくことができましたら幸いに存じます。

重ねて、本作品に興味を持ってくださったこと、オーディションにご参加いただきましたお一人お一人に、心より感謝申し上げます。

### <公演概要>

【公演名】シリーズ光景—ここから先へと—Vol.3 『消えていくなら朝』

【公演日程】2025年7月 【会場】新国立劇場 小劇場

【作・演出】蓬萊竜太

【出演】大谷亮介、大沼百合子、関口アナン、田実陽子、坂東 希、松本哲也

【芸術監督】小川絵梨子 【主催】新国立劇場

一般発売日：2025年5月6日(火・休) / 料金：未定

公式 HP：<https://www.nntt.jac.go.jp/play/morningdisappearance/> 【4/8(月) 17:00 更新】

キャスト決定ニュース：[https://www.nntt.jac.go.jp/play/news/detail/13\\_027562.html](https://www.nntt.jac.go.jp/play/news/detail/13_027562.html) 【4/8(月) 17:00 公開】

チケットに関するお問い合わせ：新国立劇場ボックスオフィス：03-5352-9999 (10:00~18:00)

### <ものがたり>

家族と疎遠の作家である定男は、5年ぶりに帰省する。作家として成功をおさめている定男であったが、誰もその話に触れようとしない。むしろその話を避けている。家族は定男の仕事に良い印象を持っていないのだ。定男は切り出す。

「.....今度の新作は、この家族をありのままに描いてみようと思うんだ」

家族とは、仕事とは、人生とは、愛とは、幸福とは、親とは、子とは、そして表現とは、様々な議論の火ぶたが切って落とされた。本音をぶつけあった先、その家族に何が起るのか。

何が、残るのか。

### <本件に関するお問い合わせ>

制作部演劇 広報担当：杉田 TEL：03-5352-5738 FAX：03-5352-5737